

>>>審査委員会による全体講評<<<

第2回「観光統計を活用した実証分析に関する論文」の募集には、全17編の応募があり、その内訳は、大学教員7名、大学院生・助教等7名、シンクタンク4名、建設系コンサルタント職員4名、研究所職員2名、元運輸系企業職員1名の計25名(団体応募含む)であった。

応募論文の傾向としては、統計モデルの構築など非常に高度かつ専門的な論文、観光入込客数の推計等を用いた地域観光活性化の取組みに有用な論文、基本的な統計手法を用いて有用な政策提言に結び付けている論文が多く見られた。また、他分野の研究者からの論文や、実務的観点からの論文の応募があるなど、幅広い視点からの分析が行われていた。

審査に当たっては、必ずしも観光庁が実施する統計の活用の有無にこだわらず、民間等が実施する観光に関する調査や独自に実施したアンケートの活用など、広く観光に関する統計の利用促進に資する論文であるかどうか、観光庁が実施する統計を活用している場合についても、その使い方や政策的な提言について評価を行い、その論文が最終的に何に役立つのかという観点から審査した。

また、以下に掲げる6つの審査基準の各項目を基に、それぞれ、「独創性」として方法論の斬新さや、「有用性」として政策的意味の重要さなどの様々な観点から総合評価を行い、機械的な点数順による選定ではなく一定のボーダー以上の論文について審査委員会によるディスカッションを行った。

その結果、他論文と比べ優位なものを"長官賞"として1編、審査委員会が奨励すべき論文であるとして"審査委員会奨励賞"を2編、計3編の論文を審査委員会全委員一致により選定した。

>>>審査基準<<<

以下に掲げる各評価項目に対して、5段階による点数を付与し、各評価項目の採点結果を踏まえ、10段階による総合評価を与え、総合評価を基に、最終的に審査委員会一致により表彰論文の選定を行う。

明確性：要約及び論文の論旨・結論が明確であり、分析結果の意義が明確に述べられているか。

有用性：国や地方公共団体、観光関連団体における諸活動に対して有用な分析であるか。

具体性：科学的・実証的アプローチに基づく、具体的な分析・考察が為されているか。

独創性：他の作品と比べ新たな切り口や斬新さがあるか。

完成度：論文の記述(本文,図表,引用,文献表等)が十分かつ適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっており矛盾はないか。

信頼性：使用する数値は、客観的な裏付けとなるような公的統計等信頼性の高いデータを使用しているか。